

事業番号	0	4	2
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	ボランティア活動等助成事業					担当部	健康福祉部				
事業期間	平成元年度 ~ 令和2年度以降					担当課	福祉総務課				
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	10	展開方向	1							
予算区分	一般会計	款	03 民生費	項	01	目	01	大	04	中	02

2. 実施状況

◆30年度実施内容

- 小牧市社会福祉協議会が実施する地域福祉活動の充実のため、要綱に基づき補助金を交付した(社会福祉協議会が実施した主な事業内容)
- 福祉教育活動推進事業
 - ・福祉実践教室(小学校13校、高校2校参加)、福祉体験学習(中高生91名参加)の実施
 - ボランティア啓発養成研修事業
 - ボランティア養成講座(手話、音訳、障がい者ガイドなど6回企画うち4回開講)の実施
 - ボランティア活動推進事業
 - ボランティアセンターの運営、ボランティアに関する相談対応、地区ボラ、ジュニア奉仕団、ココボラなどの支援
 - 在宅福祉推進事業
 - 寝たきり高齢者への紙おむつ配布(423件)

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
			直接経費	財源	千円	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	0		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	12,400	9,000	9,000	9,000		
	計(A)	千円	12,400	9,000	9,000	9,000		
	対前年比	%	-	72.6%	100.0%	100.0%		
	(当初)予算額	千円	12,400	9,000	9,000	9,000	9,600	
人件費	正職員	人	0.01	0.01	0.01	0.01		
	正職員(平均人件費)	千円	75	75	75	75		
	その他職員	人	0	0	0	0		
	その他職員(時給×年間時間)	千円	0	0	0	0		
	計(B)	千円	75	75	75	75		
事業費合計(C=A+B)		千円	12,475	9,075	9,075	9,075		
指標	成果指標	ボランティアセンター登録者数	目標	-	-	-	-	-
		実績	4,299	3,991	4,138	3,957		
	ボランティアセンター登録者の活動件数	目標	-	-	-	-	-	
		実績	6,432	6,042	6,175	6,284		
	活動指標	福祉体験学習・福祉実践教室参加者数	目標	-	-	-	-	-
			実績	1,346	1,206	1,501	1,751	
		ボランティア養成講座開講数	目標	-	-	-	-	-
			実績	6	5	6	4	
@事業費	受益者数(a)	人	-	-	-	-		
	受益者あたり事業費(b=C/a)	円	-	-	-	-		

	改善点は見られない	改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
診断結果	○事業費は、社会福祉基金を財源として毎年900万円を拠出している。(H27年度は地域支え合い推進員の人件費を含めたが、現在は介護特会で対応)			
	○補助金の充当先の内訳は以下のとおりで、9割がボランティアセンターの職員人件費である。(報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料に充当)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育活動推進事業 270,264円 ・ボランティア啓発養成研修事業 198,452円 ・在宅福祉推進事業 409,426円 			
	<ul style="list-style-type: none"> (人件費に充当) ・ボランティア活動推進事業 8,121,858円 			
	○ボランティア登録者数は、毎年増減を繰り返しているが、活動件数は、平成28年度以降、微増傾向である。			
	○ボランティア活動に参加する人たちを、育成、増加させていくため、ボランティア活動に参加しやすい環境を整備する必要があると考える。			
	◆平成31年度～令和3年度実施計画事業			
	補助対象事業に社協が独自に実施している「相談・登録・斡旋事業」を加え、ボランティア保険の保険料に充当するものとする。			
	(内容)現在、300円の保険料に対して、100円を社協、200円を自己負担(18歳未満の場合は社協200円、自己負担100円)としている。この自己負担分について、市費補助金を充当することにより、市、社協併せてボランティア保険の300円を助成することで、ボランティアの負担を軽減する。			
	(拡充額)平成31年度:60万円増額(増額:960万円)			

4. 総合評価

事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの			
	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節
評価結果	○ボランティア支援を中心とした社会福祉協議会の活動は、現在のボランティア参加者に必要なものと考え、新たな担い手の発掘、育成を目指し、福祉実践教室の開催、ジュニア奉仕団、ココボラの支援など若者のボランティア活動への支援を中心としたボランティア精神の醸成やニーズにあった養成講座の実施などのボランティアセンターの活動を支援するため、今後も補助を継続していく。				